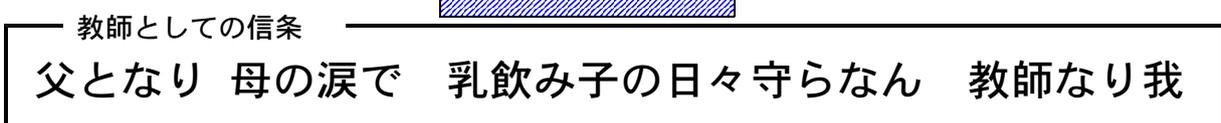
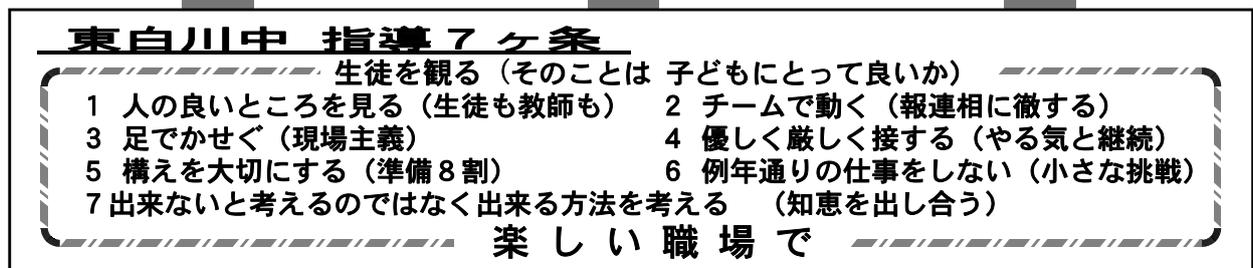
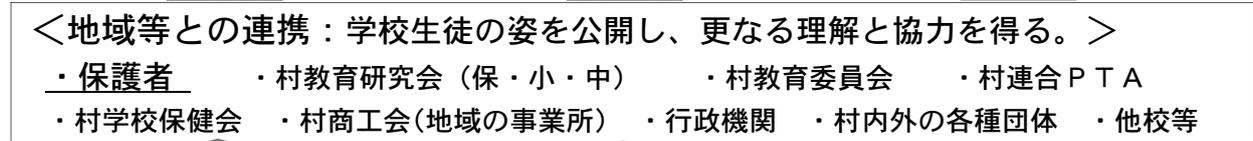
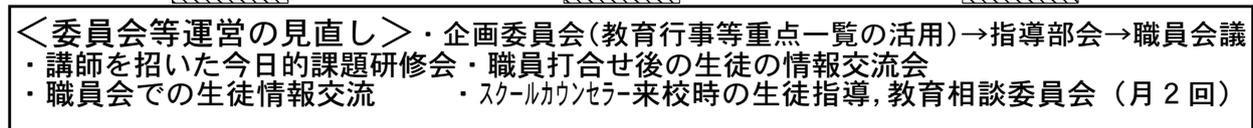
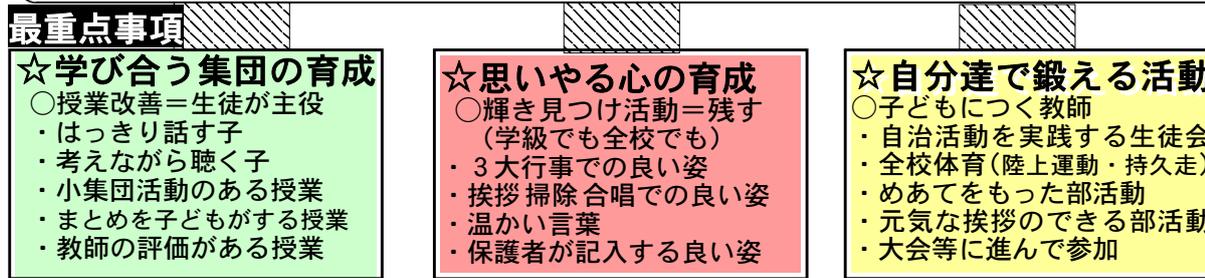
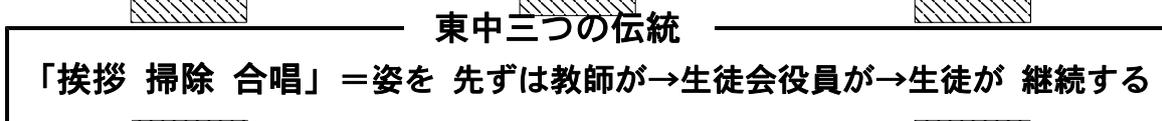
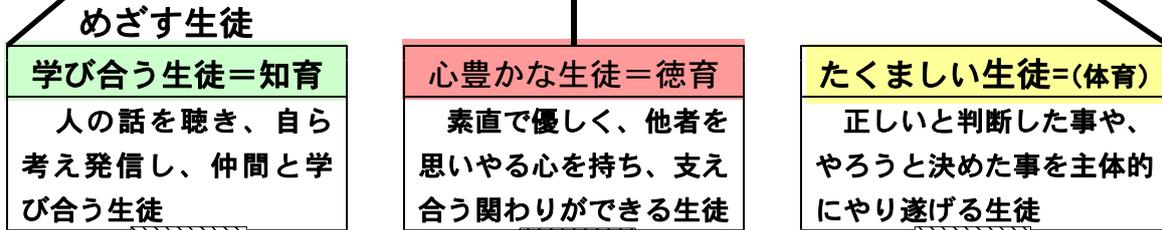


平成26年度の学校経営構想

学校の教育目標



平成26年度学校経営構想を実現するために

1 はじめに

- (1) 平成26年度も基本的な学校経営構想は変えない。学校の教育目標「求め 鍛え 高め 合う」の具現に徹する教育活動を推進していくことが、県の教育方針・村の教育方針を受けての目指す子ども像の実現に繋がっていると考えるからである。

さて、平成25年度の教育活動の成果と課題は、様々なアンケート調査や学校評価・実態把握によってある程度はつきりした。その中でも、「平成25年度を振り返って（1ページから4ページ）」において総合的に評価をした内容を持って、平成26年度の学校経営構想に表した。ここでは、この構想をどう具体化するかを説明し、共通理解を図りたいと考える。

- (2) 平成25年度は全校学力状況調査（3年生）岐阜県学習状況調査を実施し、概ね良好な状態であることが分かった。また、3大行事では過去3年間で最も子どもたちの姿が良かったと職員はもとより保護者や地域の方々からも認めていただいた。

やることはつきりし、それに向かって練習したり覚えたりして人の前に立つときには、自信ある姿を見ることが出来る。様々な行事からも生徒自信やり遂げた充実感を持つこともできた。しかし、生徒の口からも「行事やキャンペーンで見せた姿を日常でも継続しよう」と言う呼びかけになって、聞こえることから、本物になっているとはいい難い。村の目指す姿であれば「主体性を持った子」であり、平成25年度の学校経営構想であれば「生徒の手で」の部分の弱さである。そして、主体性を持った子どもに高めるための元は、「自ら考え行動できる子」を日常生活の中で粘り強く育てていかななくてはならないと考える。そのために平成26年度は、毎日行う活動を最も大切にし、その教育活動の営みをみんななで価値付け、「高め合う学校」を目指す。そのことは、常に教師が「生徒に考えさせる」接し方をしていかななくてはならない。

2 教師として

子どもたち一人一人はかけがえの無い存在であり、親にとって最も大切な存在である。その育成を担う私たち教師は、預かった子どもたち一人一人に愛情を注ぎ、自分の子どもであるかのように育て導くことが重要である。その最終目的は、親と同様、自立する人間を育てることである。

また、本校の子どもたちの大部分が卒業後、親元を離れることになる。このことを肝に銘じ日々の教育活動を充実していかななくてはならない。教師が子どもに求め子ども同士も求め合い、自らを集団の中で鍛え、より高まった姿に成長させ本校を送り出すのが本校教師の仕事である。

3 教師である職業人として

私たち教師の仕事の喜びは、いうまでも無く子どもたちの成長を肌で感じ、その姿に接したときである。社会人となって立派に成長した姿を見たときである場合もある。鍛え高められるまでには、時間と絶え間ない努力が必要である。学校という組織の中で仕事をしていくための基準（自己評価の窓）が、東白川中指導7ヶ条である。

- (1) 人の良いところを見る

人は誰かに認められ自分を更に磨き高めようとするものである。人は誰もが良さをもち様々な場面でその良さを発揮している。しかし、良さを見ようしない限りその人の良さに気づかないことのほうが多いものでもある。集団の中で生活する一人一人が常に良さに気づく人間にするために最も重要なことが「人の良いところを見る目」を養うことである。そのために、平成26年度は指導7ヶ条の1を最重要課題と位置づけ教育実践を積んでいく。

- (2) チームで動く（報連相に徹する）

報告も連絡も相談も大切であるが、今年度は特に相談して一緒に行動する。相談される人

間になるためにマイナス発言は慎み、プラス思考で物事を考えて、更に明るく楽しい職場に
して行ってほしいと願っている。

(3) 足でかせぐ（現場主義）

大声・大きな音がすれば、へんな匂いがしたら、トラブルがあればすぐ現場に行くこと。
それも一人ではなく必ず複数で。また、メールはもつてのほか電話で10分話をするなら、
すぐ家庭訪問すること。親と対面して親の思いを受け止め更なる信頼関係を築いてほしい。

(4) 優しく厳しく（やる気と継続）

考えさせ言動に移すことのできる生徒に育てる。そのために温かい眼差しで生徒のそばに
居てよく観ることが必要である。その時の言葉かけは優しく丁寧（授業中は必ず敬称を付け
て生徒の名前をよぶ教師）でなくてはならない。そして、子どもが決めたこと、発信したこ
とには責任を持たせることが重要である。

ルールを守る生徒を育てるためにやり直しをきちんとさせることができる教師でなくては
ならない。

来年度何をやり直しさせるのか・・・仲間ときめたこと（守れなかったとき）

人に聞こえない発言等 小さな声の挨拶

曖昧な礼

最後まであきらめない生徒に育てるために

来年度何をやり切らせるのか・・・委員会の仕事 生徒日直の仕事 学級の係活動
宿題

心を揃え清々しい気持ちで生活できるために

来年度何を揃えるのか・・・下駄箱の靴 たたんだ傘 机列 脱いだ服等
トイレのスリッパ 引き出しの中

自ら考え気がつく生徒を育てるために

来年度は何の後に待つのか・・・発問の後 指示をした後（気がつかないときには
3分間は黙って待つ）

4 連携の重要性について

教育委員会は当然であるが、最も連携しなくてはならないのが保護者である。大事な話は、必
ず対面して話をするのが基本である。また、本校生徒は学習時間が非常に少ないことが生活調
査で分かっている。家庭学習については、常に実態をつかみ個別の指導が必要である。また、情
報端末については、平成26年度もPTA活動の重点の一つとして情報モラル研修も必要である。

問題行動等を起こした生徒の保護者への担任からの連絡は、期日・期間を決めてこまめに対応
することが重要である。

本校の特色ある教育活動（特に総合的な学習の時間）は地域の協力によって成り立っている。
この繋がりを更に強固なものにしなくてはならない。そのために、今年度一部の関係者を「ふる
さと学習発表会」に招待し、会の中で感想を伺った。平成26年度は、更に多くの方を「ふるさ
と学習発表会」の場へ招待し（直接関わってくださった方々）、本校の取り組みの意義深さを理
解していただけるように仕組む必要がある。

村教育研究会では、参観の視点を「話せる子ども」に絞り、意見交流や取り組みの交流をする
とよいと思っている。（村教育研究会の主務者として教務主任が企画・運営できるようにしたい。）

5 委員会の運営について

平成25年度から企画委員会を設け、様々な活動のねらいや指導部で明確にすることを確認
してきた。今年度は各委員会が更に機能して有意義な各委員会をもてるようにしていきたい。
昨年度の財産を大切に改善しながら充実させていこうと考えている。

(1) 企画委員会について

教頭が提示する教育活動の方針と重点一覧表を活用する。昨年同様のものは昨年の資料をそ

のまま利用する。同じようなことは出来る限り簡潔（ねらいと仕事内容・手順）に文書化していく。新たな提案は早めに充分練って企画委員会へ担当が出向いて提案する。（基本的に2ヶ月に1回の職員会になるようにしたい。）

また、学習・生活目標は2ヶ月間同じ内容にし、生徒が常に意識し評価できるものにする。

(2) 校内研修会について

出来る限り講師を招いての研修とする。内容は今日的課題として教職員の資質向上に直接繋がる研修会を実施する。費用は村教育委員会の講師謝金と村教育研究会の予算内で実施したい。

(3) 生徒指導・教育相談委員会について

小規模校でも気になる生徒の姿は日々目にする。生徒指導上の課題や教育相談的（不登校傾向や存在感の薄い生徒への支援）に配慮を要する生徒に対して、手立ての確認と新たな手立ての必要性については、検討する組織が必要で有る。生徒指導・教育相談委員会がその役割を担う。また、平成26年度は「個別指導計画」を充実して活用できるようにしていくことも課題の一つである。当然保護者を含めたケース会議も必要であり、生徒指導・教育相談委員会で話しあわれた内容が個別指導計画に記述されていくようになる。本校では、平成24年度の実績を生かし、教育相談担当が作成した計画書を更新して活用していけば良いと考えている。よって記述責任者は、教育相談担当とする。（担当が直接記述する場合も当然あるので二人の連携が重要である。）

6 めざす生徒の実現に向けて

3領域で示しためざす生徒の実現には、3の(1)で記述したように良さを認め、認められた姿で学校が満たされるようにしなくてはならない。あらゆる活動の場面で生徒の良い姿を計画的に見付け標記し、それを掲示し続ける。そして、本校を旅立つ卒業式会場には、生徒の良さが具体的記述として埋め尽くされている。そのような良さに気づくためには、焦点を絞って観察する事項を明確にすることが重要になる。キーワードに示した「毎日することが一番大事」として、教師も生徒も常に良さを意識した生活を送らせたい。そうすることで東白川中学校自体が温かい雰囲気で包まれるようになる。この繰り返し「めざす生徒に近づき」教育目標『求め 鍛え 高め合う』の具現が実現する。

(1) キーワードについて

良さを認め価値付け習慣化（本物）するためには、毎日行う活動の場を大切にしなければならない。人は言うまでも無く環境の中で育つ動物である。毎日が自分を創り人格を形成していく。構想に示したキーワードのしたに示した活動名は当然大事にする部分であるが、三つの伝統・最重点事項とも重複する分もある。「毎日することを一番大事に」を合い言葉として、それぞれの活動の場で、常に生徒に考えながら活動を続けていきたいと思う。

(2) 東中三つの伝統について

今までもこれからも「挨拶 掃除 合唱」は東中の伝統として受け継がれていくであろう。しかし、伝統と言うからには、その姿や意味が生徒自身が理解していないと伝統とは言い難い。今年度は、伝統の姿を先ず教師が共通理解し、それを持って生徒会担当が生徒会役員に考えさせ、生徒会役員が示した姿を各学級で話し合い、全員が納得した姿として、輝き見つけ活動へつなげていく。良い姿を価値付けるためには三つの伝統に関係した生徒委員会で計画し、掲示物を作って掲示する。よって、生徒委員会の活動計画に輝き見つけ活動（残す）が位置づき重点活動として実践させたい。

(3) 思いやる心の育成について

子どもたちが仲間の良さを意識し生活の中でそれを見つけ価値付けることは、お互いを思いやる心の育成に直結すると考えた。3つの最重点事項の中でも「思いやる心の育成」が基であり、「輝き見つけ活動」が本校に定着するかのカギになる。「保護者が記入する良い姿」以外は、全て生徒会活動に関係して、輝き見つけ活動として位置づく。また、輝

き見つけ活動は、学級経営の最重要事項としても位置づける。そして、「保護者が記入する良い姿」については、授業参観時に参加保護者全員に生徒を固定して記入してもらうように依頼をすることになっている。(PTA 総会で依頼)

(4) 学び合う集団の育成について

平成26年度は、6月と11月に本校の授業を他の学校の先生方に公開することが決まっている。それを大きな目標として、既に6月に向けて研究構想に着手し、計画も具体的になってきている。これまでの校内研究の総括として学び合う集団を更に具体的な姿として提示し、授業改善をしていこうとしている。生徒が主役となって創り出す授業の具体像を緑の枠に示した。

(5) 自分達で鍛える活動について

生徒自らで鍛えられるようになるためには、教師の指導・援助が欠かせない。よく観察できる、生徒に任せて待てる教師でなくては自治的な能力は育成されない。ようするに、ここでも良さを価値付ける教師の存在が大きい。その場として生徒会活動・全校体育・部活動の各場面とした。そこで、輝く生徒の姿をどれだけ位置付くかにかかってくる。生徒会の実践する自治活動は生活を豊かにする活動もあれば「ひびきあいの日の活動」のように生活向上(意識改革)をねらった活動も含まれる。

7 その他

(1) 本校では夢加配教員が配置されている。昨年度の実績において加配が配置された。平成26年度は、更に実績をあげなくてはならない。今年度の加配要望を教務主任作成してくれた。そのことを全職員で共通理解し、実践していかななくてはならない。そして、何より大切なことは実績の積み重ねとその記録を残すことだ。数値データであったり保護者や生徒のアンケート結果であったり、目に見えて効果の分かるものを4月から蓄積していかならない。そうでなければ、平成27年度は夢加配教員を引き上げになる。全校体育の実績・理解のゆっくりな子への指導援助(指導計画 T2 としての働きかけの具体 取り出し指導生徒への指導内容と具体的な成果)

要するに、担当をはっきりして、計画・運営・見直し・指導改善を誰が責任をもってやっていくのかをはっきりさせて実践する。

<例> (計画は教務主任が行い。途中での見届け見直し改善は、特別支援教育委員会で、最後の成果のまとめは、教務主任がデータを集めて報告書を作成。→次年度の要望へ生かす)

(2) 昨年度少子化に特化した「村教育ビジョンー中学校部会ー」で具体化した内容を実施していく初年度にあたる。最初に取りかかるのは、部活動についてである。教員の中でも十分検討し3年後を見越して検討委員会を立ち上げ、子どもたち全体のことを考え、最も良い部活動の在り方を究明していかななくてはならない。

(3) 明宝中学校との合唱交流会は、昨年度で終止符を打った。他の学校との交流は本校にとって刺激になり良さに気づき更に向上するためには、非常に効果があった取り組みであった。今後も他校との合唱交流会は、続けたいと思っている。できれば近くの学校と交流を計画したい。

8 最後に

平成26年度に向けて学校経営構想を描き実現に向けて、かなり具体的に考えてきた。難しい面もあると思うが、みんなで知恵を出し合い、共通行動ができるようにしていきたい。そして、子どもにとって効果が無いと思ったことや非常に難しいと考えたことは、途中でも修正しながら実践していこうと思っている。平成26年度の教育活動を一つ一つ実施していく毎に、評価し次への計画へとつなげていくことが、より子どものための活動創りになっていく。